



PCT

特許協力条約に基づいて公開された国際出願

<p>(51) 国際特許分類7 A61K 35/12, 45/00, C12N 5/10</p>	<p>A2</p>	<p>(11) 国際公開番号 WO00/61158</p> <p>(43) 国際公開日 2000年10月19日(19.10.00)</p>
<p>(21) 国際出願番号 PCT/JP00/02420</p> <p>(22) 国際出願日 2000年4月13日(13.04.00)</p> <p>(30) 優先権データ 特願平11/154200 1999年4月14日(14.04.99) JP</p> <p>(71) 出願人；および (72) 発明者 新井 泉(ARAI, Izumi)[JP/JP] 〒120-0044 東京都足立区千住緑町二丁目19番16号 Tokyo, (JP)</p>	<p>(81) 指定国 AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CH, CN, CU, CZ, DE, DK, DZ, EE, ES, FI, GB, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZW, 欧州特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OAPI特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), ARIPO特許 (GH, GM, KE, LS, MW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM)</p> <p>添付公開書類 第17条(2)(a)に基づく宣言；要約なし；国際調査機関により点検されていない発明の名称。</p>	
<p>(54)Title: METHOD FOR RENEWING LIVING BEING PERMANTLY</p> <p>(54)発明の名称 生命永久更新法</p> <p>(57) Abstract</p>		

(57)要約

PCTに基づいて公開される国際出願のパンフレット第一頁に掲載されたPCT加盟国を同定するために使用されるコード(参考情報)

AE	アラブ首長国連邦	DM	ドミニカ	KZ	カザフスタン	RU	ロシア
AG	アンティグア・バーブーダ	DZ	アルジェリア	LC	セントルシア	SD	スーダン
AL	アルバニア	EE	エストニア	LI	リヒテンシュタイン	SE	スウェーデン
AM	アルメニア	ES	スペイン	LK	スリ・ランカ	SG	シンガポール
AT	オーストリア	FI	フィンランド	LR	リベリア	SI	スロヴェニア
AU	オーストラリア	FR	フランス	LS	レソト	SK	スロヴァキア
AZ	アゼルバイジャン	GA	ガボン	LT	リトアニア	SL	シエラ・レオネ
BA	ボスニア・ヘルツェゴビナ	GB	英国	LU	ルクセンブルグ	SN	セネガル
BB	バルバドス	GD	グレナダ	LV	ラトヴィア	SZ	スワジランド
BE	ベルギー	GE	グルジア	MA	モロッコ	TD	チャード
BF	ブルキナ・ファソ	GH	ガーナ	MC	モナコ	TG	トーゴ
BG	ブルガリア	GM	ガンビア	MD	モルドヴァ	TJ	タジキスタン
BJ	ベナン	GN	ギニア	MG	マダガスカル	TM	トルクメニスタン
BR	ブラジル	GR	ギリシャ	MK	マケドニア旧ユーゴスラヴィア 共和国	TR	トルコ
BY	ベラルーシ	GW	ギニア・ビサウ	ML	マリ	TT	トリニダード・トバゴ
CA	カナダ	HR	クロアチア	MN	モンゴル	TZ	タンザニア
CC	中央アフリカ	HU	ハンガリー	MR	モーリタニア	UA	ウクライナ
CF	コンゴ	ID	インドネシア	MW	マラウイ	UG	ウガンダ
CH	スイス	IE	アイルランド	MX	メキシコ	US	米国
CI	コートジボアール	IL	イスラエル	MZ	モザンビーク	UZ	ウズベキスタン
CM	カメルーン	IN	インド	NL	オランダ	VN	ヴェトナム
CN	中国	IS	アイスランド	NO	ノルウェー	YU	ユーゴスラヴィア
CR	コスタ・リカ	IT	イタリア	NZ	ニュージーランド	ZA	南アフリカ共和国
CU	キューバ	JP	日本	PL	ポーランド	ZW	ジンバブエ
CY	キプロス	KE	ケニア	PT	ポルトガル		
CZ	チェッコ	KG	キルギスタン	RO	ルーマニア		
DE	ドイツ	KP	北朝鮮				
DK	デンマーク	KR	韓国				

## 明 細 書

生命永久更新法

技術分野

この発明は、生物学および生命科学の分野に属する。

5

背景技術

従来、生物は死ぬと考えられていた。

発明の開示

- 10 本発明は、生物を死から解放する。この目的を達成するため、本発明は、生物の細胞、組織、器官の再生などにより、臓器を作成し、交換する、という過程を繰り返すものである。

図面の簡単な説明

- 15 第1図は、個体やクローン体の細胞から核移植した卵を培養する図である。第2図は、作成したクローン体の細胞、組織、器官などの再生臓器を、病気や事故などの障害個体における細胞、組織、器官などの障害臓器と交換し、健康個体を回復する図である。

20

発明を実施するための最良の形態

本発明をより詳述するために、添付の図面に従ってこれを説明する。

まず、第1図において、個体やクローン体の細胞から卵へ核移植を行なう。つまり、同じ遺伝子タイプを持つ個体からの細胞1を、極体と染色体を除いた未受精卵に入れ、細胞融合により核2を移動させる。

- 5 核移植後の卵3を人工器官などの培養器や大網、子宮などの生体による培養4で育成すると、第2図のように、クローン体5の細胞、組織、器官などの再生臓器6を生ずる。葉緑体、ミトコンドリア、鰓、翼など、異種の細胞、組織、器官などの取り込みも可能である。
- 10 病気や事故などによる障害個体8の細胞、組織、器官などの障害臓器7を、健康な細胞、組織、器官などの新しい再生臓器6と交換し、健康個体9を回復させる。障害個体8の細胞、組織、器官などの障害臓器7は、吸収あるいは摘出除去されるが、一部再利用も可能である。。クローン体5も、再利用できる。なぜなら、分化した細胞からも個体発生が可能だからである。従って、  
15 個体から、器官へ、組織へ、そして細胞という基本レベルに立ち返ることによって、障害された個体、器官、組織、細胞などからも、健全な個体、器官、組織、細胞などを回復できる。また、各レベル間の融合も可能となる。
- 20 以上の過程を、それぞれの細胞、組織、器官などについて、第2図のように繰り返すことによって、健康個体9を維持する。病気や事故などで障害される臓器は、その都度、多様であり、それに応じて本発明のプロセスを反復することによって、生命を  
25 未来へ向かって永久に更新させてゆくことができる。人工の素材や、外部刺激による体内の障害の自発治癒をも併用できる。

### 産業上の利用可能性

以上のように、本発明は、多種多様な病気や事故などによる障害個体の細胞、組織、器官などそれぞれの障害臓器を、同じ遺伝子タイプを持つ健康な細胞、組織、器官などの再生臓器と

5 新しく交換することによって、健康な個体を永久に維持してゆくことができる。この過程を未来へ向かって継続的に繰り返しながら、生存に適するさらに良質な遺伝子への置き換えや、人工素材などの併用や、新しいエネルギーの利用システムなどを、この

10 反復プロセスに組み入れることで、交換する細胞、組織、器官などの臓器性能をますます向上させ、より多面的に進化する個体を創造し、生命を永久に更新させてゆくことができるものである。

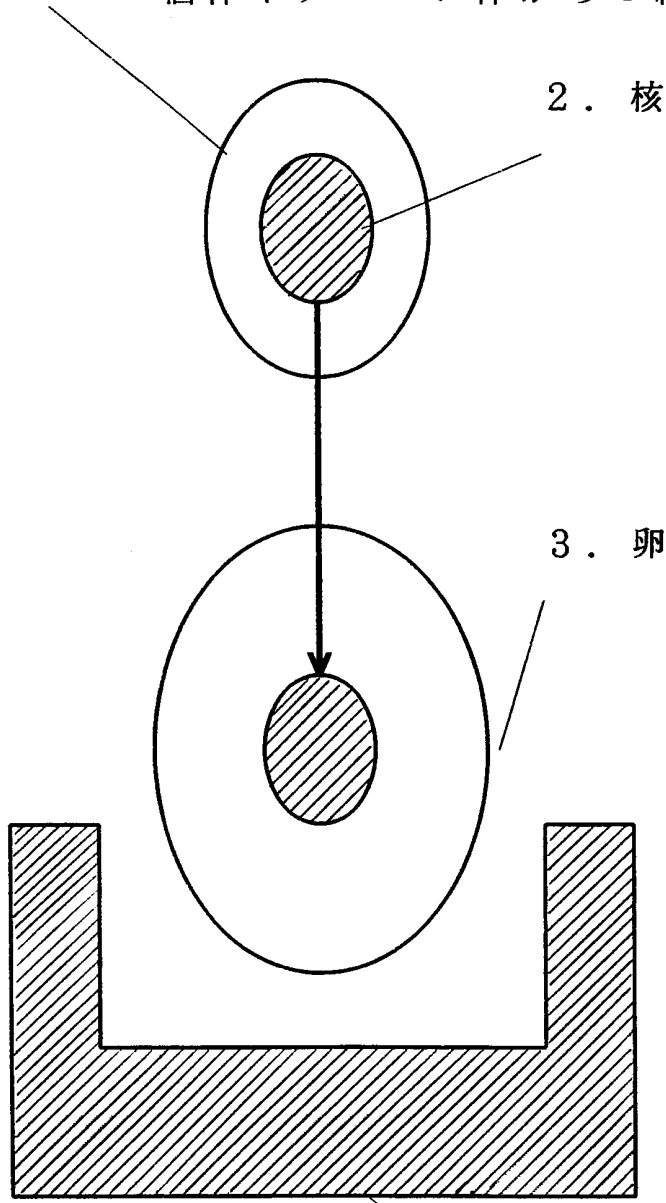
## 請 求 の 範 囲

1. 生物の細胞、組織、器官の再生などにより健康な臓器を新しく作成し、病気や事故などによる障害個体の細胞、組織、器官などの障害臓器と、交換する、という過程を繰り返すことによって、健康な個体を永久に維持し、生物を死から解放する。この過程を未来へ向かって継続的に反復しながら、より良質な遺伝子への置き換えや人工素材や新しいエネルギーシステムの併用などをこのプロセスに組み入れ、細胞、組織、器官などの臓器性能を向上させ、多岐にわたり進化する個体を創造し、生命を永久に更新させてゆく。

第 1 図

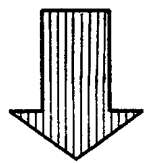
1. 同じ遺伝子タイプを持つ

個体やクローン体からの細胞



2. 核

3. 卵



4. 人工器官などの培養器や  
大網、子宮などの生体による  
培養

第 2<sup>2/2</sup> 図

5. クローン体

